

2022年3月
愛知県周産期医療協議会
会長 田中太平

パリビズマブの投与時期について

早産、気管支肺異形成症、先天性心疾患、免疫不全、ダウン症候群の児は Respiratory syncytial ウイルス (RSV) 感染重症化のハイリスクであり、これらの疾患を有する小児では RSV 感染による重篤な下気道疾患の発症を抑制するためにパリビズマブの投与対象になっています。

「RS ウイルス感染症の予防について（日本におけるパリビズマブの使用に関するガイドライン）」には流行期間については「日本の多くの地域では、RSV 流行期は通常 10～12 月に開始し、3～5 月に終了する」と記載されていました。近年、RSV 感染流行時期が従来と大きく変わってきたことを受け、ガイドラインが一部改訂されました。パリビズマブの初回投与日と投与期間については以下のように記載されています。

パリビズマブの有効性を高めるためには、RSV 流行開始時までには血清抗体価を予防に必要なレベルまで高めておく必要がある。このため、初回投与は RSV 流行が開始する前に行い、流行が終了するまで継続する。各年度の RSV 流行時期は年度によって変動している。さらに、地域差があり各都道府県において各年度の RSV 流行開始時期にばらつきがあることから、感染症発生動向調査等、入手し得るデータを参考に、パリビズマブの投与開始時期と終了時期を決定することが重要である。

愛知県においては定点あたりの RSV 感染報告数=0.4 が RSV 流行の目安とされています。2017 年、2018 年では 7 月に定点あたりの RSV 感染報告数が 0.4 を越えて RSV の流行期になっていたため、2019 年からパリビズマブの投与開始時期を 8 月から 7 月に変更をしました。2020 年は新型コロナウイルス感染症の流行が影響したためか RSV の流行はありませんでしたが、

2021年は4月から爆発的な流行となりました。そのためパリビズマブの投与開始を7月から急遽6月に変更した経緯があります。

2022年の流行パターンを予測することは困難ですが、2021年春の大流行および2022年の3月までの流行状況を鑑みると2022年については5月開始が望ましいと考えます。投与終了時期については2022年12月としますが、愛知県衛生研究所が公表している愛知県感染症情報を参考に2023年1月以降に大きな流行があることが予想される場合は改めてご相談させていただきます。

また、2022年5月第1週目（1日～8日）は大型連休と重なるためパリビズマブの投与が難しく、この時期に2022年初回投与対象となる患児では（註）はシーズンを通じての投与ができなくなります。該当する患児については5月中の投与であれば症状詳記を付記して対応することでお願いしたいと思います。

2022年においては昨年までと開始時期等が変わることとなりますので、診療報酬支払においてのご配慮のほどよろしくお願いいたします。

註

- 2021年4月2日～9日生で、在胎期間28週以下の早産出生の乳児
- 2021年10月2日～9日生で、在胎期間29週～35週の早産出生の乳児
- 2020年4月2日～9日生で、過去6ヵ月以内に気管支肺異形成症の治療を受けた幼児
- 2020年4月2日～9日生で、血行動態に異常のある先天性心疾患の幼児
- 2020年4月2日～9日生で、免疫不全を伴う幼児
- 2020年4月2日～9日生で、ダウン症候群の幼児